

# 同志社大学

## 2014年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2015年 4月 1日提出

所 属	職 名	氏 名
社会学部	教授	小林 久高
研 究 題 目	現代日本の政治意識	
研 究 成 果 の 概 要	<p>政治意識は、(1)たとえば、国民年金についての意見といった個々の具体的争点についての意識(政治的意見)、(2)社会福祉政策一般に対する意識といったより一般的な意識(政治的態度)、(3)自由主義的体制に対する意識といったさらに一般的な意識(政治イデオロギー)という3つの水準からとらえることができる。</p> <p>しかし、さらに根源的に考えるならば、「集団的意思決定」「公共性」「社会規範」など、社会のあり方一般についての人々の根本的な考えが種々の政治意識に影響を与えていると考えられる。本研究はこの社会一般についての根本的意識と政治意識・政治行動の関係を明らかにするものである。</p> <p>2011年度末(2012年3月)に、デュルケムの思想をもとに公共性について検討した論文、「公共性の精神的基盤」『社会分析』日本社会分析学会を公表したが、2012年度もこの方向で検討を進め、社会への根源的な愛着と公共的活動との関係について考察を深めた。2013年度は、ウェーバー、マルクス、フロイトの思想をもとに近代と共同性の関係について検討した。2014年度はモースおよびカイヨワの思想から、近代と共同性の関係について検討した。</p>	